

3.5.5. Fishbowlからのデータ取得方法

この文章では、次を説明します。:

- [FishbowlとGMDH Streamlineでの重要用語対応](#); and
- [データインポートワークフロー](#).

重要用語

Fishbowlが管理する重要用語には、パーツと地点グループがあります[Fishbowlには、いくつかのパーツタイプがあります]GMDH Streamlineは、在庫品目タイプのパーツタイプを品目として、地点グループを地点として扱います。

データインポートワークフロー

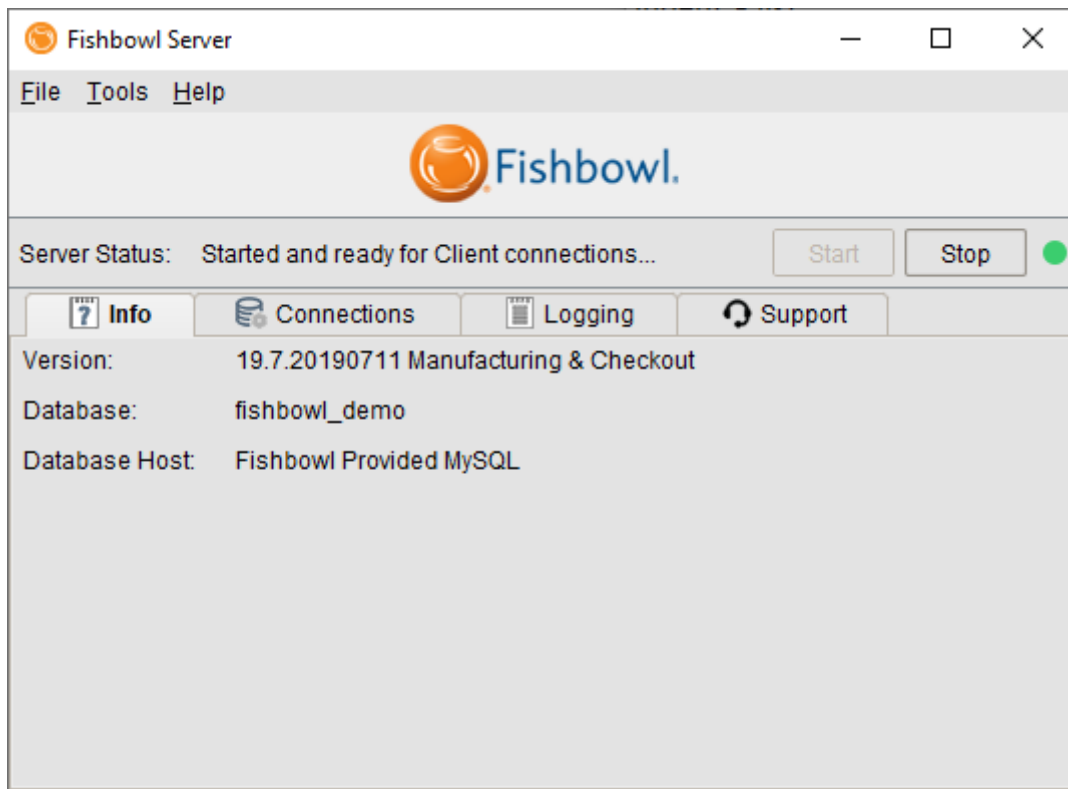
次の手順に従い、FishbowlデータからGMDH Streamlineのプロジェクトの新規作成します¹⁾:

1. メニューよりファイル > 新規 > **Fishbowl 接続**を選択します。**Fishbowl 接続**ダイアログが表示されます(下記の図を参照)。

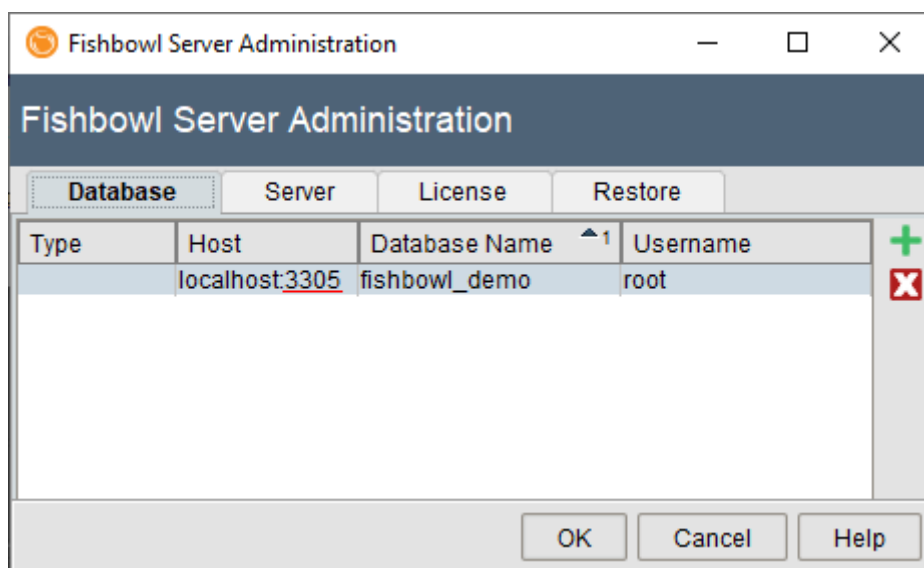
2. Fishbowl サーバーが実行されているサーバーのホスト名(またはIPアドレス)をホストフィールドに入力します。**localhost** オプションは、デフォルトで設定されています。これは[Fishbowl サーバーがインストールされたPCにてGMDH Streamlineが実行されていることを意味します。

3. MySQL データベース 接続のポートをポートフィールドに入力します[GMDH Streamlineは、デフォルトであるFishbowlポート**3305**を利用します。動作しない場合、次からの手順を行い、適切なポートを見つけます。:

3. 1. タスクトレイにあるFishbowl サーバーアイコンをクリックします。**Fishbowl サーバー** ウィンドウが開きます(下記の図を参照)。



3.2. メニューよりツール > オプションを選択します。**Fishbowl サーバー管理** ウィンドウが開きます(下記の図を参照)。



ホスト列のコロン(':')以降にあるポートを見つけます(上記の図を参照)。

4. 接続先のFishbowl データベース名称を、**データベース** フィールドに入力します。この名称は、**Fishbowl サーバー管理**ウィンドウの**データベース名** 列にあります。

5. データベースへの読み取り権限のあるMySQLユーザーのユーザー情報を、**ユーザー名**フィールドと**パスワード**フィールドに入力します。GMDH Streamlineは、Fishbowl データベース コンポーネントの**デフォルトのMySQLユーザー**のユーザー情報を事前に設定します。

6. インポートを開始する日付を、**開始日** コントロールに入力します。

精度の高い予測を作成するには□GMDH Streamlineに少なくとも24か月の販売履歴を設定することを強くお勧めします

2020/09/29 06:44

7. **タイムスタンプのグループ化** コントロールから、データ集計期間を選択します□GMDH Streamlineが、設定された期間(日単位または週単位または月単位)自動で集計します。例えば、予測や補充計画やその他のレポートを月次単位で確認したい場合、月別にデータを集計します。

8. **OK**をクリックして、インポートを開始します。

インポート オプション

- **地点の合併**オプションは、すべての地点を1つにまとめることができます。このオプションは、各倉庫が並んでいるために、1つの統合された倉庫として計画をしたい場合に便利な機能です。
- **SQLクエリの編集**は、**データベース 接続 ダイアログ**を開き、デフォルトの SQL クエリをカスタマイズして、ユーザーの要件に合わせます。

次へ: [Micronet \(Australia\)](#)

[PDFダウンロード](#)

1)

翻訳者注釈: FishbowlはデータベースにMySQL データベースを利用しているため、接続の説明には□MySQLを利用したデータベース 接続と似ている記述が多数あります。

From:
<https://gmdhsoftware.com/documentation-sl/> - **GMDH Streamline Docs**

Permanent link:
<https://gmdhsoftware.com/documentation-sl/ja:fishbowl-connection-guide>

Last update: **2020/09/26 13:44**

